

3・11郡山現地へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年2月12日
No.265

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

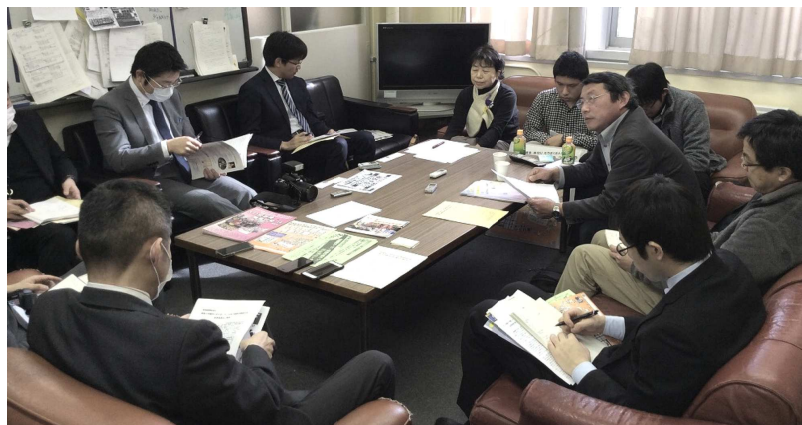
「2/3福大弾圧粉碎!」2・10に記者会見を開催!

「2・3福島大弾圧」に反撃すべく、2月10日、「3・11反原発行動実行委」で記者会見を行いました。福大生・樋口正太郎君、全学連・坂野陽平書記長、実行委の椎名千恵子さん、福島診療所建設委の渡辺馨さんが参加し、圧倒的注目を集めました!

最初に樋口君が不当逮捕を徹底弾劾し、逮捕後に「暴行」容疑が「傷害」へと切り替わった許しがたさを批判。「この逮捕は原発反対を訴える学生を許さないという福島大・国家権力の意思表示です」と弾圧の本質を明らかにしました。A君は団結して社会を変えようと福大生に日常的に訴え、樋口君と団結し、この間も金谷川駅前新たな福大生との結合が生まれています。弾圧を契機に、樋口君の存在の求心力が高まり、福大当局と安倍政権を打倒し学生自治会を建設できるという機運が高まっています。それを福大当局が恐れるからこそ、反革命的な全学メールを送り、治安弾圧に協力し、「思想統制」による分断と「反原発=過激派」キャンペーンを進めています。

樋口君は全学メールを弾劾し、「Aさんは反原発ビラを原発事故後、ずっと学内でまいていました。福大当局は弾圧直後に『学生のみなさんは十分注意し、身の危険を感じたら直ちに学生課までお知らせください』なるメールを送りつけ、Aさんや私が行う反原発運動が過激だと宣伝していますが、許せません」と、自分がなぜ反原発運動を闘ってきたのかを訴え、A君は無実でありでっち上げ逮捕だと明らかにしました。

坂野書記長は「不当逮捕は許せない」と全学連の抗議声明(※裏面掲載)を配布しました。椎名さんは、「『命の側に立つのか』が問われています。安倍政権は戦争・原発再稼働に突き進み、福島では子どもの甲状腺ガンが疑いも含めて113人も出て



います。福島の声と真実を伝えてほしい。健やかな社会をつくるために命の側に立ちましょう。報道する者こそ責任があります。福島の怒りを伝えてください」と記者全員に訴えました。渡辺さんは「『福島民友』でふくしま共同診療所があたかも過激派の拠点のように描き出されているが、現実には様々な人々が検査にくる場で、地元福島の方々からは信頼を受けています。『中核派の拠点』だと民友さんは書いていましたが実際に来てください。福島の怒りを踏みにじることだと民友は自覚してください」と、内部被曝への医療拠点としての共同診療所を侮辱する『福島民友』のあり方を徹底批判しました。

記者会見は、11社の報道機関が来て大注目でした。これを契機に、2・12福大集会→3・11反原発闘争を成功させよう!

日本共産党が1・20事件で戦争に事実上賛成し、労働者・学生を裏切り絶望を振りまいています。全学連と闘う福大生は、学生自治会の力で安倍政権を打倒する決意です! 福島大で闘う自治会を建設しよう! 全国学生はともに闘おう! (TS)

再稼働、戦争、首切り もうたくさんだ 怒りを力にたちあがろう つながろう

3.11反原発福島行動'15

〈日時〉 3月11日(水)13時~ ※12時からイベント
〈場所〉 郡山市民文化センター・大ホール(集会後、デモ行進)
〈呼びかけ〉 3・11反原発福島行動実行委員会
〈メール〉 3.11fukushimaaction@gmail.com



【声明】 2・3福島大「傷害」でっち上げ弾圧を許さない！ 3・11反原発福島行動'15の爆発で福島を怒りを示そう！

2015年2月10日 全日本学生自治会総連合(委員長・斎藤郁真)

【1】徹頭徹尾でたらめな2・3弾圧

私たち全学連は、本年2月3日、福島大学で反戦・反原発のビラを福島大生に配布していたA君が、傷害罪をでっち上げられ不当に逮捕されたことに対して強く抗議します。

「学生がビラを受け取らなかった」としてA君がつかみかかったという暴論からはじまる虚構の事件によって、彼は逮捕から一週間以上も不当に勾留され続けています。

容疑とされている内容について、そもそもA君は傷害はおろか胸ぐらをつかんですらいません。むしろ、A君に対して突き飛ばしたり胸ぐらをつかむなどして暴行をふるったのは「被害者」Sの側であり、この事実はA君と一緒にビラを配布していた全学連の仲間や通行中の多くの福島大生が目撃しています。

さらに、この事件において普通では考えられないこととして、「被害者」Sの110番通報で現場に現れたのが制服警官ではなく公安刑事であったこと、「被害者」Sがすぐさま大学当局(学生課)に電話して大学職員の応援を呼んだことが挙げられます。他にも挙げればいくつもある不可思議な点を総合して見るならば、今回の弾圧が反動学生、福島大学当局、および国家権力(安倍政権)の結託によって仕組まれた反原発運動つぶしのための政治弾圧であることは明らかです。実際に、本件が傷害事件として扱われているにもかかわらず、なぜかA君の住むアパートに家宅捜索が行われ、その押収対象も「反原発と記載のあるもの」とされていました。いわゆる“過激派キャンペーン”をきっさきしながら反原発運動全体にネガティブな印象を与えて運動を妨害しようとするでっち上げ事件を絶対に許すことはできません。

【2】3・11以来、立ち上がり続けて来た福大生の存在

福島大学当局は、翌日には全福島大生に対して今回の事件を周知するメールを送信しています。福島大学の教職員が事件の瞬間を見ているわけでもなければ、直接的な当事者でもないのにも関わらずです。そして、今回の事件をあたかも「学外者」の「過激派」による事件として描こうとしていますが、それとは裏腹に福島大学当局が3・11以来最も弾圧を加えて来たのは実は福島大生であり、今回の弾圧も福島大生に対して、反原発運動に関われば逮捕されるという恫喝をするための見せしめとしても行われたものであることは間違いありません。

3・11後、福島県内で行われた最初の大規模な反原発デモである11年6月19日の福島市内デモを皮切りに、この4年間、福島大生は絶えず原発事故に対する不安や怒りを胸に行動に立ち上がり続けて来ました。そして、それを力でねじ伏せようとし続けて来たのが他ならぬ福島大学当局です。

福島大学当局は反原発という中身を問題にしているのではなく、ルールを守らないことを問題にしているなどと繰り返していますが、それもまた真っ赤なウソであり歴史の捏造です。これまで福島大学当局は福島大生が福島大学当局の定めたルールに従って企画した反原発の講演会すら認めてきませんでした。11年10月には講義棟で企画をやらせないために当日の講義棟の貸し出しを他の学生も含めて全面的に禁止するということまでありました。また学長・副学長直轄体制で、担当教官、保護者、友人関係など利用できるものは全て動員して、福島大生の反原発の思いを泥靴で踏みにじって来ました。そして、権力をもって福島大生が反原発運動から離れざるを得ない状況をつくりだしては、「本人は納得している」「大学の対応に感謝していると言っ

ていた」などと許すことのできない発言を繰り返してきました。

つい最近も、全学連の仲間がビラを配布していることに対して「ゴミを散らかすな」などと極めて侮辱的な発言を福島大生がいる前で繰り返し、反原発の活動に取り組む仲間を差別・分断してきました。今回の事件も、そうした反原発運動に対する弾圧の一環です。しかしそれは同時に、そのような中でも福島大生が原発反対の声を上げ続けて来たことに耐えかねた福島大学当局の悪足掻きであると言えます。不正義に満ちた大学当局の姿勢と社会に対して怒りを持って立ち上がり続ける福島大生の存在が彼らに破綻を突きつけています。

【3】戦争国家体制構築の一環としての治安弾圧強化

このような政治弾圧、言論弾圧が行われて来た背景には、大学も含めた原子カムの存在、そして安倍政権・日本帝国主義が戦争をできる国づくりへと突き進んでいる現実があります。法政大学でも原発御用学者・大久保利晃(放射線影響研究所理事長、郡山市原子力災害対策アドバイザー)の講演会に抗議した学生が無期停学処分を受けていますし、何より昨年11月に京都大学で起きた公安刑事摘発事件がそのことを鋭く社会に示しています。この事件をめぐることも、公安刑事を摘発した学生自治団体の執行部を務める学生が先日「微罪」でもって不当逮捕され長期勾留されています。1・20日日本人質事件をも契機としながら、「テロとの闘い」「過激派の壊滅」などといったスローガンを掲げれば、あらゆる法的な規制をも乗り越えて権力者の好き勝手に治安弾圧を行っても許されるというようなプロパガンダが流布されています。今回の事件に関するこの間のマスコミ報道も“過激派キャンペーン”一色であり、到底看過できません。

【4】大学を反原発・反戦の砦に

私たちのなすべきことは、こうした状況を民衆の実力でもって覆していくことです。とりわけ学生と労働者の団結した力、学生自治会と労働組合の行動が歴史を分かち決定的要因として問われています。私たちが共に闘って来た国鉄水戸動力車労働組合(動労水戸)は、復興・帰還キャンペーンの中、「被曝労働拒否」を掲げJR線の再開にストライキで抗しています。ふくしま共同診療所は、福島医大が先頭に立って放射能安全神話をふりまく中、「避難・保養・医療」を掲げ原発事故による健康被害に向き合っています。先日、ふくしま共同診療所に対しても、福島民友による“過激派キャンペーン”が行われましたが、動労水戸の闘い然り、本当に現実を変えることのできる運動は多くの福島の人々からの支持を生み出しながら力強く発展しています。

私たち全学連は、来たる「3・11反原発福島行動'15」に全力で取り組む中で原発御用学者を大学から追放する闘いを前進させます。そして、戦後70年談話の発表を契機に戦後日本の在り方、とりわけ憲法9条に代表される戦争放棄の在り方を全面的に覆そうとしている安倍政権と真正面から対決し、5～6月安保国会を全国300万の学生の怒りで包囲する闘いを実現すべく全力で闘う決意です。政治弾圧とは本質的には見せしめにしか過ぎません。それを打ち破る力はまさにA君のように反原発・反戦の行動に多くの学生が立ち上がることにあります。その力でもってA君の釈放を直ちに勝ち取りましょう！「被害者」S、福島大学当局、警察権力は政治弾圧をやめ、A君に謝罪しろ！全ての学生はA君弾圧に抗議の声を上げ、安倍政権を倒そう！とりわけ福島大生の皆さん、「3・11反原発福島行動」に共に立ち上がろう！